

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

1. 提案事業概要

【事業名】	第1回アジア（オセアニア）質量分析会議
（英語名称）	The 1st Asian and Oceanic Mass Spectrometry Conference
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	和田芳直、日本質量分析学会会長（国際質量分析学会副会長） 大阪府立母子保健総合医療センター 研究所長
【事業形態】*	（1）国際集会の開催
【実施期間】†	2010年6月15日～2010年6月18日 （4日間）
【実施場所】†	つくば国際会議場 エポカルつくば
【参加国・地域】†	中国、韓国、インド、シンガポール、タイ、台湾、香港等 12ヶ国・2地域
【事業概要】	<p>質量分析（MS）は医薬品・化学工業から環境・食品安全まで広く社会を支える科学・技術であり、その基盤としての「質量分析学」は化学に軸足をおきつつ物理、生命科学、情報学など複合的・学際的に多くの解決すべき課題や展望をもつ専門領域である。近年のMSへの期待と分析装置の普及を背景にMSを専門とする科学者・企業人は指数関数的に増加し、それは特にアジアにおいて顕著で、北米・欧州と並ぶ3つ目の極となりつつある。実際、世界組織 International Mass Spectrometry Foundation においてもアジア・オセアニアは1地域として区分されている。</p> <p>MSの国際学術集会としては、毎年開かれる米国質量分析学会と3年ごとに欧州で開かれる国際質量分析会議があり、日本やアジア各国からこれらの学術集会に多くが参加しているが、アジアを中心とする国際学術集会はなかった。一方、上に述べたようにアジアにおけるMSへの期待とニーズが増大していることから、アカデミアおよび企業からアジア独自のコミュニティ形成への期待が高まっている。日本質量分析学会は2007年からその学術集会（年会である「質量分析総合討論会」）にアジア各国の学会長レベル研究者を講演者として招待するプログラムを開始したことで、アジア各国間の相互交流が一挙に深まったことが今回申請の第1回アジア（オセアニア）質量分析会議の企画を現実的なものとした。これは、日本学術会議化学委員会の活動「アジア化学戦略」とも合致する事業である。</p> <p><u>提案する事業内容</u></p> <p>アジア地域の学術交流およびアジア各国が共通に課題とすべき事項についてまとめて議論できる枠組みとしてのアジアMSコミュニティ形成のため、中国、韓国、インド、台湾、香港、シンガポール、およびオーストラリア・ニュージーランド（オセアニアとして1学会）の主要な研究者（各国会長を含む）に加えタイ、マレーシア、フィリピン、バングラデシュなど新興国の関係者約30名を招へいし、それをコア参加者として広く参加を募り、第1回アジア（オセアニア）質量分析会議を開催する。また、この会議を運営する組織運営委員会 steering committee を各国代表によって構成することで、会議を今後継続的に開催できる体制を作る。この第1回アジア（オセアニア）質量分析会議は日本質量分析学会の2010年年会である第58回質量分析総合討論会に併催する。そのことによって、わが国研究者の国際化やアジアとの連携意識を高め、学生や若手の英語コミュニケーション能力を向上することもめざす。具体的には総合討論会の会期3日間（+前日）を通じて1会場をこの国際会議にあて、6つのトピックについてシンポジウムを開催する。また、今後の組織運営を定める組織運営委員会を会期中に開催する。</p>